

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。  
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。  
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。  
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

エントリー学校名：神奈川県横浜市立緑園西小学校

活動名：

「持続可能」な教育実習 ～教員の仕事の魅力が伝わる実習に～

解決すべき課題：「ブラック化?」「マンネリ化?」した教育実習

- 教育実習生への負担が大きい。特に、研究授業に向けた準備と、手書きによる「実習日誌」の記入に時間がかかっている。そのため、放課後に指導教員以外の教職員と交流することが少なくなってしまう。
- 受入れ校（特に指導教員）にとっても負担が大きい。また、近年は経験年数の浅い教員の割合が増えているため、「ベテランが実習生にノウハウを伝授する」ような教育実習を続けることは難しくなっている。
- 指導教員は、過去に自分が体験した教育実習の内容を「なぞる」ことになりがちである。
- 実習生が翌日の準備等で夜遅くまで学校に残ることが、ハラスメントを誘発するリスクにもなる。
- これらの結果として、教育実習を通して「教員という仕事」の魅力を実習生に伝えることが難しい。

目標・方針：教員という仕事の魅力が伝わる教育実習に

- 横浜市教育委員会が提案する「教育実習の見直し例（☆）」などを踏まえて、実習内容の焦点化とともに、実習生の大学での経験、実習期間、教育ボランティアとしての体験の有無などに応じた個別化を図る。
- 「ベテランがノウハウを伝える」教育実習ではなく、実習生と指導教員らが共に成長することを目指す。
- 職員全体で実習に関わることにより、指導教員の負担を軽減するとともに、学校の活性化につなげる。

活動内容：（教育実習コーディネーターの教員が計画・調整）

- 実習内容の焦点化：学生ボランティアの経験者に対しては、講話等の内容を精選【図1】【写真3】
- 示範授業の見直し：初任者研修や校内重点研究との連動、指導案の簡略化
- 研究授業の見直し：指導案を一から作成するのではなく、既存のものから選択することも可。研究授業だけでなく、日々の一コマ授業を大切に【写真1】
- 「実習日誌」にパソコンを利用：パソコンで作成し、プリントアウトしたものを日誌に貼り付けることにより、下書きや推敲に要していた時間を短縮【写真2】
- メンターチーム（若手教員の学び合い活動）との連動：実習生も一緒に参加【写真4】
- 他学年の取組などにも参加：指導教員のクラスだけではなく、支援学級を含めた各学年の行事や「出前授業」、就学時検診などの取組にも参加し、幅広く学校の業務を体験【写真5】

活動の成果：

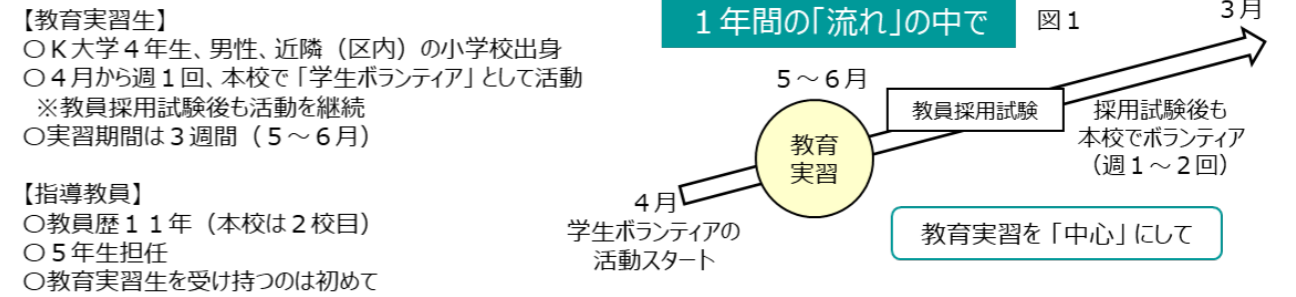
- 実習生の学校退出時刻（平均）：17時30分 ※これまでは19時以降に退出する実習生が多かった
- 実習生の感想：「教員という仕事のやりがいを感じることができた」「自分自身の課題がはっきりした」
- 指導教員の感想：「自分自身の取組を振り返る機会になった」「子どもたちにとっても貴重な体験だった」

アピールポイント（アイデアや工夫）：

- 個々の教育実習生の状況に応じた「オーダーメイド」の教育実習に
- 「ベテランがノウハウを伝授する」教育実習から「実習生と教員が共に成長する」教育実習に
- 教育実習のために新しいことを行うのではなく、既存の「点」の取組を「線」につなげる教育実習に

昨年度の取組

※教員歴、担当等は昨年度のもの



脱「ブラック教育実習」

【教育実習中の生活】

学校に来る時間（平均）・・・8:00 学校を出る時間（平均）・・・17:30



写真1【教育実習】総合的な学習の時間

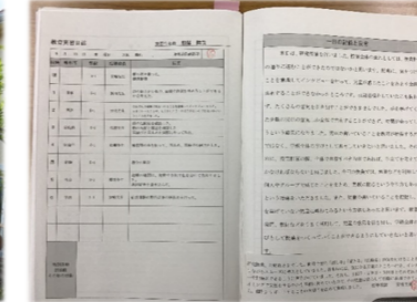


写真2【実習日誌】パソコンで作成



写真3【学生ボランティア】プリントの丸付け

【教育実習生の声】

教員という仕事のやりがいを感じることができた。

限られた時間の中で、実態や子どもの特性に合わせた授業を考え、改善していくことが大変だと感じた。

授業実践を経験して、子どもの意見の引き出し方、時間の配分など、臨機応変に対応する力を身に付けていきたいと感じた。

【指導教員の声】

教育実習を通して、自分自身の授業や学級経営などについて振り返ることができた。

クラスの子どもたちにとって貴重な3週間になった。

【教員採用試験の結果は・・・】

令和2年4月から市内の小学校で勤務中



今年度の取組

※コロナ禍のため、実習期間を【5～6月】から【10～11月】に変更（現在、実施中）

- 【教育実習生】
- Y大学3年生、女性、他県出身
- 特別支援教育専攻
- 特別支援学校での実習を経験済み
- 実習期間は4週間

- 【指導教員】
- 教員歴5年（本校が初任校）
- 4年生担任
- 教育実習生を受け持つのは初めて



写真4【メンターチーム】体育実技の研修



写真5【就学時検診】検査の補助

☆「教育実習の見直し例」・・・動画『教育実習のこれから』（横浜市教育委員会）  
<https://www.youtube.com/watch?v=-Aq1tyfjhrM>

